

▶ 連続立体交差事業の概要

- 連続立体交差事業とは、市街地において道路と交差している鉄道を一定区間連続して高架化又は地下化することで立体化を行い、多数の踏切の除却や新設交差道路との立体交差を一挙に実現する都市計画事業です。
- 連続立体交差事業は、都市交通の円滑化や線路で分断された市街地の一体化などを図り、都市活動の活性化に寄与するものです。
- 連続立体交差事業と周辺で実施される土地区画整理事業などのまちづくりを一体的に実施することにより、市街地の再生・活性化及び快適で魅力的なまちづくりを一層推進することができます。

▶ 連続立体交差事業による効果

●都市交通の円滑化

- ・踏切がなくなり交通渋滞と事故が解消されます。



●まちづくりの促進

- ・鉄道により隔てられていた街の一体化により、地域の活性化に強いインパクトを与えます。
- ・魅力的で快適なまちに生まれ変わります。



高架下駐輪場

●鉄道施設の改良等

- ・駅にエレベーターが設置されるなど、人に優しく便利な鉄道施設に改良されます。



駅施設のバリアフリー化



高架下商業施設



鉄道沿線地域の環境改善

JR武豊線鉄道高架事業計画の経緯

年次	事業の経緯
明治19年	○(1886年)3月・武豊線開通(東海地方では最も古く・武豊～熱田間・半田駅開設)現在、東海道本線大府駅を起点とし、武豊駅間19.3km・1日39往復の運転状況
昭和62年	★国鉄「民営化」に移行
昭和63年～	○「JR半田駅周辺整備検討委員会」を設置(JR武豊線の高架事業の検討)
平成3年	○JR武豊線の高架化を実現できるよう、「国道247号」・「県道衣浦西港線」・「市道荒古線」の3路線の道路整備に着手、愛知県半田土木事務所を中心に事業を図ることとなる
平成4年	○JR武豊線のダイヤ改正(列車本数20本増加)により、連続立体交差事業の要件に該当 ・平成4年8月25日 踏切交通量調査実施 ○清算事業団より鉄道高架化仮線用地取得 9筆・5,609.85㎡
平成6年～	○JR半田駅周辺歩行者専用道路として仮線用地取得
平成11年	○JR武豊線のダイヤ改正により名古屋駅との直通便が10本から30本に増加、同時に新型車両の導入 ○半田市議会鉄道高架特別委員会設置(11～12年度)
平成12年	○「JR半田駅周辺連続立体交差研究会」を設置(鉄道高架に関する基本的な方向性を検討) ・平成12年10月31日 踏切交通量調査実施
平成13年～	○「JR半田駅周辺連続立体交差化検討委員会」を設置(鉄道高架と一体的なまちづくり構想を検討)
平成15年	○半田連続立体交差事業促進期成同盟会設立
平成16年	○JR武豊線半田駅付近連続立体交差事業調査新規採択 ・平成16年10月28日 JR武豊線踏切交通量調査実施 ○JR半田駅周辺まちづくり協議会設置 ○半田市議会鉄道高架特別委員会設置

位置図



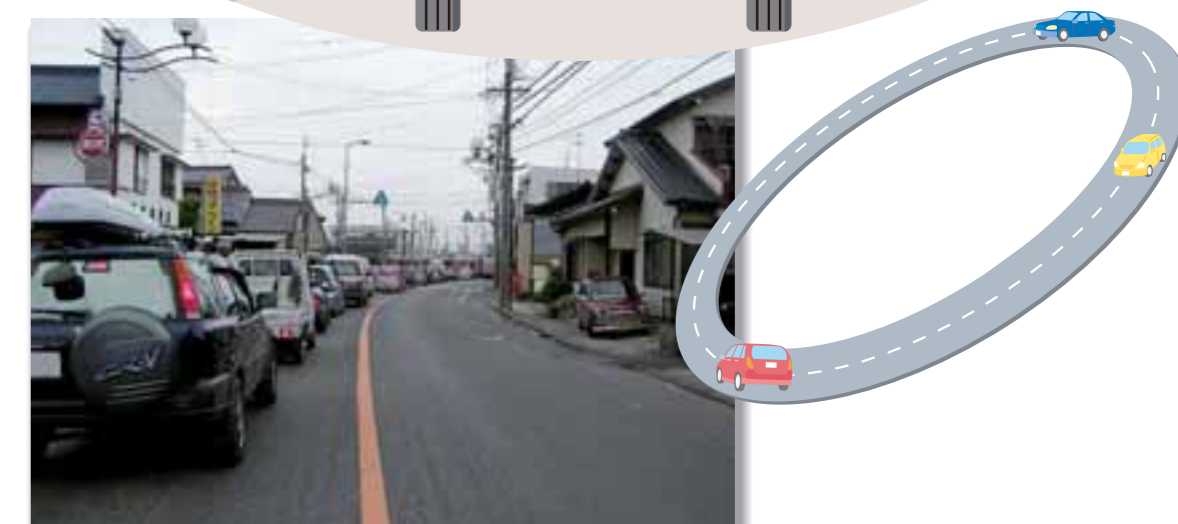
第5回はんだ山車まつり(平成14年10月5・6日)

半田連続立体交差事業促進期成同盟会

事務局 〒475-8666 半田市建設部都市計画課内
TEL (0569) 21-3111
FAX (0569) 25-3254

快適なまちづくりを目指して

鉄道高架とまちづくり



半田連続立体交差事業促進期成同盟会